

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Association of preconception dysmenorrhea with obstetric complications: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠前の月経困難症と産科合併症との関連

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pregnancy and Childbirth

年: 2022

DOI: 10.1186/s12884-021-04347-7

筆頭著者名: 村田 強志

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

月経困難症とは、月経に伴って生じる下腹部痛が病的に強い状態です。子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫は月経困難症を引き起こしやすい疾患です。妊娠前の月経困難症が、妊娠にどれだけ影響するかについてはよく分かっておりません。本研究では妊娠前の月経困難症と妊娠中に生じる様々な合併症との関連を調べました。

方法:

エコチル調査に参加した妊婦及び生まれた子どものデータから、日常生活への支障の程度によって月経困難症を軽度、重度に分類し、早産、在胎不当過小児の出生、前期破水、妊娠高血圧症候群との関連について統計解析を行いました。さらに、子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫の有無によって月経困難症を細分化し、解析を行いました。解析時に、妊婦の年齢や体格、喫煙の有無や学歴、収入といった社会的な背景因子を考慮しました。

結果:

80,242人の妊婦について解析を行いました。月経困難症のない妊婦と比較して、重度の月経困難症を有する妊婦では、約1.4倍早産になりやすいという結果でした。さらに、子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫がなく、重度の月経困難症を有する妊婦でも、約1.3倍早産になりやすいという結果でした。一方で、軽度の月経困難症と早産の間には関連がありませんでした。また、月経困難症の有無はその他の妊娠中の合併症とは関連がありませんでした。

考察(研究の限界を含める):

月経困難症、特に重度の月経困難症では、基礎にある子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫が直接妊娠に影響したり、月経困難症を引き起こすホルモン産生の異常や炎症が妊娠に影響したりする可能性があります。本研究において、重度の月経困難症を有する妊婦において、早産になった頻度が高いという結果が得られました。しかし、本研究では、月経困難症の診断や分類が統一されていないこと、子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫がすべての例で調べられているわけではないことに注意が必要です。月経困難症と妊娠中の合併症との関連についてはさらなる研究が必要です。

結論:

妊娠前の月経困難症の有無と早産の頻度には関連がみられました。しかし、本研究の結果には限界点もあるので、注意深い解釈が必要です。妊娠前の月経困難症と妊娠中の合併症の関連についてはさらなる研究が必要と考えられます。